

背景色が肌の色の見えに及ぼす影響

Effect of Background Color on the Appearance of Skin Color

乾 宏子 Hiroko Inui アトリエエクリュ
早川照美 Terumi Hayakawa
市場丈規 Takenori Ichiba Color Lab. for full Life

Keywords: パーソナルカラー, 対比, 同化, 記憶色.

1. はじめに

パーソナルカラー診断ではドレープの色が肌の色に影響を与え, それによって似合う色グループの判断をしている. その影響については, 2011年日本色彩学会全国大会において市場らの「カラー診断時にドレープが顔色に及ぼす影響(1)(2)」が報告されている. (1)でドレープの反射光の影響を測色値から示す¹⁾一方で, (2)では視覚効果について示唆している²⁾.

今回は, 反射光の影響を除くため, 異なる背景色に手を置いたときに肌の色がどのように見えるかについて検証した. カラー診断時に一般的によく使用される黄みのピンクと青みのピンクのドレープ(背景色)に色票を置くと色相対比が見られる. しかし, それぞれに手を同時に置いたとき, 前者は黄みより見え, 後者は青みより見える. この現象は一見すると対比ではなく「同化」が起きているように考えられる. このように色票と肌で異なって見える原因として次の3点が考えられる.

- ①肌は半透明である
- ②肌は立体である
- ③肌という認識(記憶色)がある

以上の点に着目してそれぞれの条件で観察した. 明度対比や彩度対比についても検証結果を報告する.

2. 実験および観察方法

光源と使用したドレープ(背景色)のNCS近似値を表1に示す. 色票と肌の違いについて前述の3つの要素をそれぞれ排除する方法として次のような実験条件で観察をした.(表2, 図1~3)

- a 手に不透明の肌に近い色(s4020-Y60R 近似

色)の手袋をはめて観察

b 肌の写真を置いて観察

c 半透明の肌に近い色のシリコンの塊(s3020-Y60R 近似色)で観察

表1. 観察時条件

光源	昼白色蛍光灯 1000lx 以上
ドレープ	黄みのピンク…s0550-Y90R 青みのピンク…s1060-R30B グレイ …s5505-R80B

表2. a, b, cにおける色票と異なる要素

	色票と異なる要素		
a 手袋	—	立体	(肌と認識)
b 手の写真	(半透明)	—	肌と認識
c シリコン	半透明	立体	—

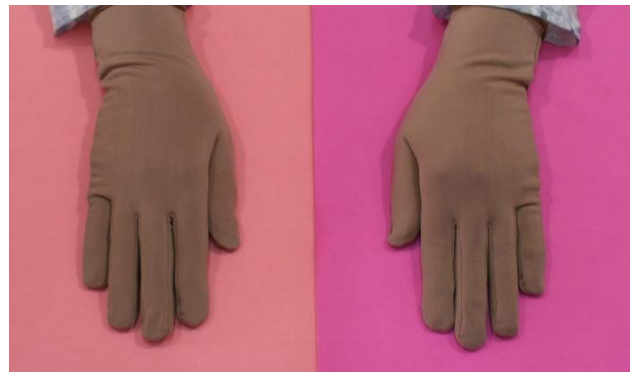


図1.手に不透明の肌色の手袋をはめて観察



図2.肌の写真を置いて観察



図3.半透明の肌色のシリコン状の塊で観察

3. 結果

a, b, c のいずれの場合も異なる背景色に置いたときには手と同じように「同化」のように見られた。そこで異なる背景色の間にグレイのドレープをおいて単独で手を観察するとどちらのドレープに置いた手も黄みよりに見え色相対比が観察できた。(図4)

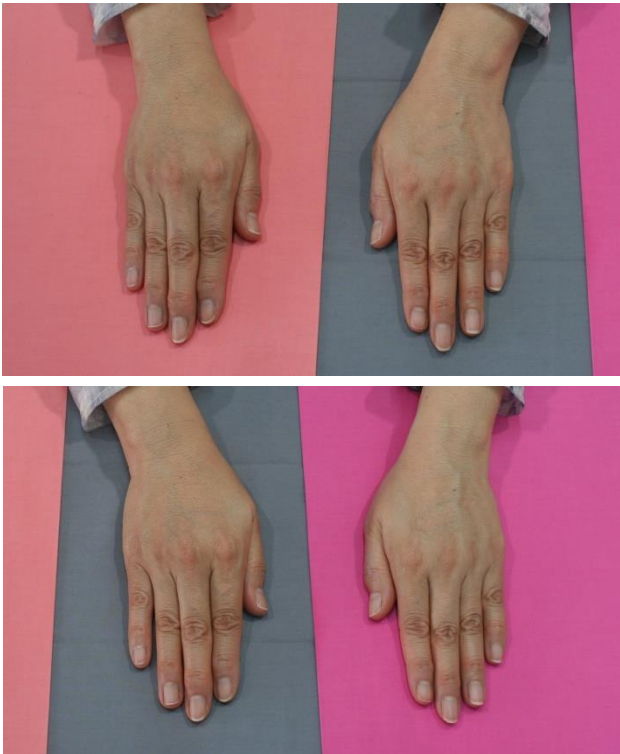


図4.各ピンクとグレイのドレープとの比較

4. 補足実験と結果

記憶色による色彩恒常が、「同化」傾向の見えを引き起こす可能性についても検証した。

平均的な肌の色⁴⁾を中心としてわずかに黄みよりの色票(NCS色票s3020-Y30R)と青みよりの色票(NCS色票s3020-Y50R)を背景色として手

の色を観察した(図5)。

また、手であることが認識できないように写真を円形にくり抜いて同様の観察を行った(図6)。前者は、一瞬色相対比が生じるように見えるが、しばらく観察していると同化傾向に見えてくる。しかし後者のように手であることを認識できなくすると同化傾向には見えず、色相対比が生じた。

5. 考察

1) 肌独特の見え方ではない

a, b, c, いずれの場合でも手自体の見えと大差がなかったことより、肌独特の見え方や肌(手)の持つ特性によるものではないといえる。

2) 同時に見ることによる対比と同化の混同

どちらのドレープに置いた場合も肌の色は黄みよりに見え、色相対比が観察できた。また黄みのピンクのドレープの上でその傾向が顕著に見えるのは、「色相対比は隣接・類似色相間では顕著で中差相間では不明瞭になる」³⁾ためと考えられる。つまり色相対比が生じているにもかかわらず、異なる背景色に同時に置いて見ることで黄みよりに見える程度の違いが際立ち、黄みのピンクに置いた手は黄みよりに青みのピンクに置いた手は青みよりに見え、あたかも「同化」が起きているかのように思い違いをするためと考えられる。

3) 記憶色による同化方向への見え

補足実験結果より、手という認識があると肌の記憶色による色彩恒常が働き、見えに影響を与えているのではないかと推測できる。一般的な記憶色は実際より明度も彩度も高いが、肌の記憶色は、明度は高く彩度は低くなる。そのため、記憶色から著しく離れた赤みの強い肌や濃い肌の色では同化方向の見えは見られないことも観察できた。

4) 明度対比と彩度対比

明度や彩度については、図7のように明らかな明度対比が観察できた。また彩度対比については図4からも明らかである。

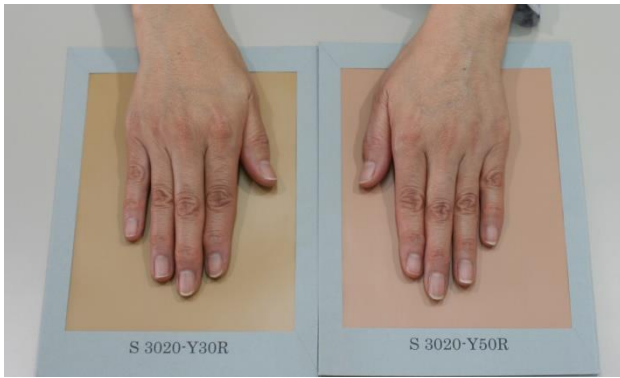


図5.黄みよりの肌色と青みよりの肌色背景色で手を観察

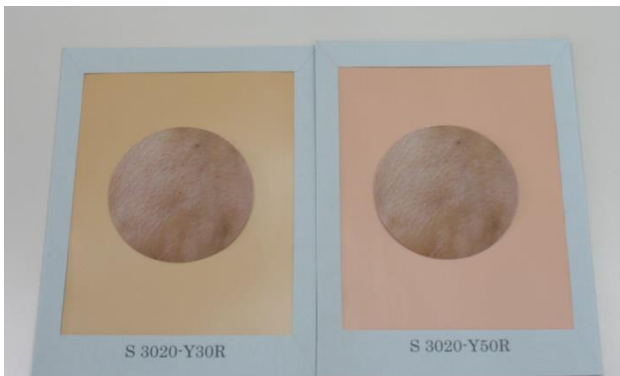


図6.図5の同じ背景色で肌と認識できない手の部分を観察



図7.肌における明度対比

6. まとめ

ピンクのドレープを背景色とした色の見えでは「同化」ではなく色相対比が生じる。しかし、肌の見えについては同化方向に見える現象も否定できない。

今回はピンクのドレープのみで観察をしたが、パーソナルカラー診断に使われる他の色のドレープでも肌の色の見えを観察する必要があると考える。

本研究に際して写真撮影に協力いただいた竹川カズヨシ氏に感謝いたします。尚、撮影時の照明条件は、東芝ライテック LED ミニライト 600 (5000K, Ra92 以上) 2機と補助光源として昼光色蛍光灯を使用。照度は 650lx であった。カメラの

機種はキャノン EOS kiss デジタル N, シャッター速度は 1/15, 絞り数値は 5.6 であった。

参考文献

- 1) 市場丈規他くらしの色彩研究会:カラー診断時にドレープが顔色に及ぼす影響(1),日本色彩学会誌35Supplement p.146-147
- 2) 市場丈規他くらしの色彩研究会:カラー診断時にドレープが顔色に及ぼす影響(2),日本色彩学会誌 35Supplement p.14-15
- 3) 市場丈規:色の視覚効果&知覚的効果,観せる魅せる色彩教材 I CD 版,ちくさ出版
- 4) 市場丈規,乾宏子:肌色の視感測色に見られる傾向について,日本色彩学会誌 38(6)p.452-453